10-⑧ あなた自身を喜ばす生き方

<あなた自身を喜ばす生き方>(P255~✔)

-自己を喜ばす人は解放された人である

自分がどれほど自分自身を喜ばさないような生き方をしているかを知ったら、誰でもショックをうけよう。これは大きな問題だ。彼は自分の一日一日が、苦痛への無意識的な奴隷状態のうちに、自分で必要なことと勘違いし

しかしながら、これが分ることのショックはまた幸福な啓示でもある。われわれがいまいる道への覚醒は、この道を変えることができる。スーパーマインドから生きている人は、彼自身を喜ばす生き方をしている。彼の内な

彼は彼自身を喜ばすために生きている。しかしこれは想像されるような、利己的な生き方ではない。全然逆だ。これこそ雅量(がりょう)なのだ。唯一の真の雅量なのだ。自己を喜ばす人は、解放された人であり、他の人々

あなたは自分自身のことを霊的な求道者だと思う必要はない。霊的な人、宗教心の篤い人という自己イメージをたずさえて生活するというのは骨の折れる重荷である。人は、霊的であるとは何を意味するかなどという条件づ

インドの悟達(ごたつ)した導師、シュリ・ラマクリシュナが面白い譬(たとえ)話をしている。数人の男がマンゴの林に入って枝と葉を調べた。だがもう一人別の男はずっと賢かった。彼はマンゴの実を食べてみたのだ。こ

次の霊的法則を銘記し、力づけられるとよい。ひとつの宇宙的真実は、それがわれわれを畏怖(いふ)させることが深ければ深いほど、その治癒力は大きい。もしわれわれがこの事実を避けたり抵抗したりはせずに、この事

自己覚醒は闇を払う魔法の光である。

進歩をするとはあなたが必ず人生の揺れを表面的な冷静さで受けとめることを意味しない。ほとんどのケースでいえることは、危機に際して冷静でいるかに見える人々が内部では痛烈なショックを受けており、ただ静寂の外

正しく生きるには、まずフルに生きなければならない。あなたは勇気をもって、あらゆる出来事に、あらゆる人に、あなた自身をさらけださなければならない、あなたの現在の信念に何が起こるかを知ることなく、もしくは

あなたが前に喧嘩した友人をなんとなく避けるとすれば、あなたはやはり彼を怖わがっているのだ。なんと言おうか、どういう態度でいこうかなどと予め考えることない、その友人と会う気持になっているとすれば、あなた

自分自身を喜ばすように生きるとは、日常的に湧いてくるあらゆる欲望を満足させるということではない。非常な違和感をおぼえるアイディアではあるが、これをまずなんとかして把握しなければならない。もともとわれわ

他の人々に、こちらを満足させるような振舞いをさせたいという誰にでもある欲望をとりあげてみよう。こちらを満足させるとは、たとえば相手にこちらを尊敬してほしいということだ。ところが相手が、そうした態度にで

われわれが満ち足りているならば、他の人々がわれわれをどう扱おうと構わないではないか。いや、まったく構わないはずだ。森の中を翔ぶ鳥は、木の影に煩(わずら)わされるだろうか?

偽りの自己感覚という、この自由な生への敵をもう一度吟味してみよう。

人はその真実の本性から生きてはいない。彼は、彼自身についての何ダースもの夢幻(むげん)的な自己像から生きている。夢幻影像は、人がこれを本物と受けとるから、彼の情緒を支配し、彼の行動を決定する。かくてす

ビジネスマンは自分の会社の中で自分が重要な人間であると思っている。それで、会社の中のなにかのプロジェクトになんらかの役割を依嘱(いしょく)されないと、不当に扱われたと感じる。それはもっぱら、自分が重要

地上におけるすべての問題と苦悩の原因となっている幻想というものの、ちっぽけではあるが、これは一つの典型である。自分には別のアイデンティティがある、自分は宇宙全体から離れたなにものかであるという自己中心

映画製作のスタディオへいってみる。家屋が並んでいる路地を歩いていく。そこまではよろしい。

だが、一軒の家のドアを開けて中で憩(やす)もうとするとどうなるか? 憩むどころではなく、不快となる。家屋のセットは見せかけだから、そこでのくつろぎなどは不可能である。

われわれに起こることはすべてこれだ。偽りの見せかけのなかで生きているから、そこで落ち着とうとするとショックを受ける。

われわれは、自分でそう思っているような自分ではないのではないか、と疑い始めなければならない。われわれは目を覚まさなければならない。

偽りの自己感覚を消すことを怖れているかぎり、人間はあくまでも附きまとうその代償を支払わなければならない。しかし彼自身に関するあらゆる虚偽を進んで解き放つならば、彼は爽快という新しい生を生き始めるのだ。

まるで錠(じょう)のかかっているドアを叩くように偽りの自己と気狂いのようになって戦うことはもうないのだ。それはガラスのドアなのだから、透けて見えてしまうのだ。

Revision #4
Created 6 November 2024 06:30:11 by ゆう
Updated 7 November 2024 07:54:14 by ゆう